

第4章 基本方針（素案）

第1節 整備の基本理念

令和6年度に策定した保存活用計画では、広島城跡の将来像について以下のように大綱として示した。また現行の整備基本計画では、広島における史跡広島城跡の位置付けを基に4項目の整備の目標を定めている（3～5ページ参照）。

これを踏まえ、本改定整備基本計画における整備の基本理念を次のように定める。

広島城跡の将来像（保存活用計画 大綱）

- 広島城跡の本質的価値を構成する諸要素を確実に保存管理し、将来に継承する。
- 史跡指定地内外の広島城跡に関する調査研究を計画的に継続するとともに、史跡ひいては広島の歴史への理解を深めるための活用を図る。
- 広島城跡の歴史的空間の保全・整備を推進し、これを将来に継承する。
- 広島城跡の保存と活用を推進するために必要な組織体制を確立する。

広島城跡整備の基本理念

広島らしい風景のなかで歴史を継承・体験できる場として位置付け、多様な機能を有するオープンスペースとして都市観光の拠点となるような整備を実現する。

第2節 整備の基本方針

基本理念を実現していくための基本方針について、保存活用計画では「保存管理、活用、整備、運営・体制」それぞれの分野ごとに下記のようにその要点を整理している。

1. 保存管理の基本方針

- (1) 広島城跡の本質的価値を構成する要素である遺構を保存するため、日常的な維持管理を確実にを行うとともに、良好な歴史的景観の保全を図る。
- (2) 保存・活用に必要な調査研究を計画的・継続的に進めていくとともに、その成果を広く公開し、史跡の魅力向上に努める。
- (3) 広島城跡とその周辺の中心市街地との調和を図り、城とまちが一体となった魅力的な空間創出を目指す。
- (4) 史跡指定範囲外にも存在する、かつて広島城を構成していた要素や、旧城下町範囲の地下遺構などに関する調査研究を進め、その価値の顕在化を図る。
- (5) 現状変更等の行為については、明確な方針を定め、適切に運用していく。

2. 活用の基本方針

- (1)広島城跡の本質的価値を多様な来訪者に伝えるため、調査研究を進めその成果を積極的に公開するとともに、来訪者が学び楽しめる取組を検討する。
- (2)広島城跡の本質的価値を幅広く活用し、その魅力を伝えるために学校教育や社会教育と連携した取組を推進する。
- (3)広島城跡と、国史跡頼山陽居室や国名勝縮景園等を含む旧城下町範囲を、広く連携した観光資源として活用し、史跡周辺の活性化へと繋げる方法について検討する。
- (4)史跡指定地はこれまで都市公園として広く開放され、市民に親しまれてきている。こうした経緯も踏まえ、史跡と都市公園の共存を目指し、適切な利活用を進める

3. 整備の基本方針

- (1)これまで実施してきた整備内容について再検討を行うとともに、広島城跡の今後の保存・活用に向けた整備を計画的に実施するため、整備方針を定める。
- (2)史跡の本質的価値を保護するため日常的な維持管理を適切に行うとともに、毀損及び危険箇所を把握した上で必要に応じて計画的な復旧を実施するほか、その価値をより高めていくための整備手法についても検討する。
- (3)多様な来訪者に史跡の価値や魅力を理解してもらうために、本質的価値をより顕在化させるための整備を図る。
- (4)史跡周辺を含めた歴史的景観の維持・向上を図るための整備を検討する

4. 運営・体制の整備の基本方針

- (1)本計画に基づいた史跡の保存・活用のため、必要な体制を整備し、効果的かつ円滑な事業運営を目指す。
- (2)将来にわたり、史跡の保存活用を適切かつ継続的に行っていくために、官民一体となった協働体制づくりを目指す。
- (3)調査研究を計画的・継続的に進めていくために必要な組織・体制を確立する。
- (4)本計画の推進に当たり、関係機関や庁内関係部局との調整と連携を図る。
- (5)市民との協働を通じ史跡への理解を図り、史跡を将来へ適切に継承していくための取組について検討する。

改定整備基本計画における整備の具体化検討に当たっては、保存活用計画において定めたこれらの基本方針を踏まえた上で行うものとし、全体計画と地区別計画とを整合させながら、各地区の特性に応じた整備の方針を定めることで、より魅力的な史跡広島城跡の将来像に繋げていくことが重要である。

4. 史跡広島城跡整備の目標・方針

(1) 整備の目標

広島城跡をどのようなものに整備するかは、整備のための計画づくりにおいて最も根本的なことであり、それは広島城跡整備の全体像に係わることである。

従って、整備の目標を設定するに際しては、今までの調査等で把握した次の点を十分認識する必要がある。

- 自然的環境 ———— 広島城跡の位置する地形、立地、気候、風土等
- 社会・経済的環境 ———— 現在広島城跡が都市、そして市民や訪れた人々の中で果している役割、将来果すべき役割
- 歴史的環境 ————
 - 広島城と広島の歴史的関連性
 - 広島城の変遷
 - 歴史的資産（文化財）としての意味
- 広島城跡の現況 ———— 遺構・公園整備・景観・利用などの現況（課題）
（課題）

これらを踏まえ、「史跡広島城跡保存管理計画書」で示されている4項目の広島城跡の位置づけを、史跡広島城跡整備の目標とする。

- 広島を歴史を継承し、かつ体験できる場
- 広島らしい風景を持つ空間
- 人々に親しまれ、多様な機能を発揮するオープンスペース
- 都市観光の拠点

① 広島を歴史を継承し、かつ体験できる場

広島城跡は、無論城郭の遺構として広島の都市の起源や武家社会の歴史・文化を学習・体験できる数少ない貴重な歴史的遺産であり、文化財でもある。

同時に広島城跡は、明治以降の軍都の中心としての経緯もあり、現在においても大本営跡等の旧軍関連の遺構が存在している。このうち大本営跡については、近代以降の広島の歴史を理解する上で、必要不可欠なものであり、国際平和文化都市をめざす広島市にとって、歴史に刻み、継承する重要な意味を有している。

従って、これら時代的、性格的に異なる遺構を、江戸時代後期の城郭の形態を基準とする中で調和させながら保存・活用し、“歴史の拠点”として、広島を歴史を継承かつ、体験できる面的広がり一体性を有した野外博物館的機能を発揮するよう整備する必要がある。そして、“拠点”とは“広域的拠点”、つまり、広域的に影響する吸引力を持つことが望まれ、そのためには“量”だけでなく“質”も重要であり、歴史性を基本とした魅力づくりが重要となる。

② 広島らしい風景を持つ空間

建物の高層化が進展する中で、天守閣のランドマークとしての役割は限定的なものとなってきた。しかし、広島城跡は都心に位置し、主要な道路網（軸線）と交差した状況にあることから、広島城跡を活かした都市景観を創出し、広島らしさを感じさせる個性的な空間づくりが望まれる。

特に、鯉城通りの軸線が城跡と交差する付近には、二の丸（平櫓・多聞櫓・太鼓櫓跡）が位置し、それを活かしたビスタを形成することができる。また、縮景園と城跡を結ぶ軸線等においても、城跡を活かしたビスタ形成の可能性がある。

これらが実現すれば、広島城跡（歴史拠点）と中心商業業務地区（商業・交通拠点）、県立美術館・縮景園（文化拠点）等の結びつきが景観的に強化され、広島城跡への誘導性も高まることになる。さらに、周辺の主要な建築物や中央公園からの展望も可能であり、それらへの計画的な展望空間の確保が望まれる。

これら広島城跡を活かした景観づくりに加え、サイン施設等を整備し、広島城跡と周辺の平和公園などの拠点とのネットワークを形成し、魅力的な都市空間づくりをめざすことも重要となる。

③ 人々に親しまれ、多様な機能を発揮するオープンスペース

広島城跡は史跡であるとともに、中央公園の一角でもあり、都心に位置するまとまったオープンスペースとしての役割も果している。被爆後においては、灰塵と化した中であって、緑化が積極的に進められ、また、被爆樹木の幾つかは芽を吹き返し、現在では緑豊かな空間として、堀や石垣といった城跡としての形態を伴いながら、中央公園の特色を形づくっている。また、樹木の中には、景観阻害要素を隠蔽するなど、景観的な役割を果している場合や、訪れた人々の憩いの場、うるおいを感じる要素として城跡に不可欠な場合もある。

しかし、樹木の繁茂や城跡にふさわしくない樹木が存在によって、城跡としての景観が弱まっていることは事実であり、さらに、根によって石垣等の遺構の破壊も問題として生じている。

従って、これら問題樹木については、史跡整備の観点からそれぞれの特性に応じながら、適切な対策を講じる必要がある。また、広島城跡においては、前記のように樹木は必要な要素であり、城跡としての歴史性を活かし、それと調和させながら、都市における緑の空間を確保する必要がある。そして、このことを実現するための性急な対応は望ましくなく、原則としてゆるやかに樹木の再整備を図ることが肝要である。

④ 都市観光の拠点

史跡広島城跡の年間利用者は、現在およそ 100万人と推計されるが、その4割強は、正月3ヶ日の広島護国神社への参拝者である。また、城跡の利用目的についてみると、文化財に接するという目的での利用者は少なく、利用者の居住地は、市内及びその周辺地域が主体となっている。（史跡広島城跡における利用状況調査報告書～昭和63年 3月）

このような利用状況に加えて、100万都市の中心部に中央公園の一角として立地していることや、近接地の平和公園では、年間百数十万人が平和学習等で利用していることを考慮すると、史跡広島

城跡の利用者数は、必ずしも多いとはいえない。そのことは、広島都市空間に存在する拠点施設のネットワーク形成と史跡広島城跡自体の特性を活かした魅力づくりが十分でないことにもつながる。

従って、前記の3項目を目標とした史跡広島城跡の整備を推進する必要があるが、その場合、都市観光の拠点づくりという視点も含めて整備を図ることが重要となる。つまり、周辺の拠点施設とのネットワークの中で、史跡広島城跡を都市観光の拠点としても位置づけ整備することは、広島を訪れた人に対し、広島歴史・文化を体験的に伝え、より深い広島への理解と印象を得ることにつながるのである。